

さけます展示施設のページ

イヨボヤ会館

えづれ むつこ
江連 睦子（さけますセンター 業務推進部）

写真（下）大きな鮭の看板が一際目をひく、切妻造りのイヨボヤ会館、その隣は売店、食堂が入っているサーモンハウス、（右）会館の裏手は公園となっており、広さ7.4haもの園内には、人工河川や池、あずま屋などの他に青砥武平治の立像がある。



写真 ①ミニふ化場、②生態観察室、③鮭観察自然館、④観察自然館から覗いた種川（三面川の分流）、⑤三面川本流に設置された捕獲場。ここで増殖用の親魚が捕獲されており、伝統的漁法である鮭の「居繰り網漁」などの光景も見られる。

新潟市から北東に約50km、新潟県の北の端、山形県との県境に鮭のまちとして知られる村上市があります。古く平安時代からサケは村上市の特産として珍重されており、村上市では独自の鮭文化を築いてきました。この地方では、魚といえばサケであり、「サケ」のことを「イヨボヤ」という方言で呼んでいます。村上市を流れる三面川には、「種川」という分流があります。「種川」とは、江戸時代にサケの回帰性に着眼した村上藩士・青砥武平治によって考案されました。世界初の鮭の自然ふ化増殖により、「種川の制」として村上藩の施策に導入され、成功をおさめます。これが我が国における「さけますふ化放流事業」の原点であり、村上市はサケと共に歩んできたまちなのです。

「イヨボヤ会館」は、日本最初の鮭の博物館として、昭和62年に鮭公園の中心的施設として開館しました。建物は切妻造りの3階建てとなっており、サケとイクラをデザインしたエントランスを過ぎてすぐの“サーモンシアター”では、四季折々の三面川の景観と鮭と村上市のかかわりが分かりやすく上映されており、この地の人々がいかに鮭を大切に思ってきたかを知ることができます。続く“サケのミニふ化場”では、いろいろな淡水魚が飼育されている他、秋～冬にかけては、「サケのふ化槽」が設置され、卵～稚魚までのサケが成長していく様子を実際に観察することができます。

地階にはサケを観察できる人工河川をはじめ、



写真 ①サケのふ化事業について(1階)、②郷土の人々のくらしや③三面川の漁法(2階)など、村上の歴史や鮭文化を紹介しているコーナー、④サケの生態を楽しく学べる2階「こどもさかな科学館」。



写真 (左) 生態観察室から見た人工河川のサケの群れ。運がよければ産卵シーンに遭遇できる(写真提供:イヨボヤ会館)。

(右) 今回お話を伺った奥村館長。



様々な淡水魚を展示している“生態観察室”があります。続く“青砥武平治記念コーナー”では「種川の制」の歴史や功績をアニメで分かりやすく紹介し、三面川の分流である種川を遡上してくるサケの群れをガラス越しに観察できる“鮭観察自然館(10月～12月頃)”へと続いています。毎年、三面川で4月にサケ稚魚の放流式が行われ、地元小学生らによって、イヨボヤ会館で生まれ育ったサケ稚魚も放流されています。

そして、「イヨボヤ会館」では、村上と鮭の歴史、三面川の漁法、伝統的な鮭料理など、独特の鮭文化が詳しく紹介されており、村上と鮭の深いかわりをうかがい知ることができます。また、“こどもさかな科学館”では、コンピュータゲームなどで楽しく遊びながらサケについて学ぶことができます。

奥村館長にイヨボヤ会館の一番の見所をうかがったところ、“生態観察室”と“鮭観察自然館”とのことで、11～12月に運がよければ産卵シーンを見ることができるとのこと。但し、親ザケの展示については、自然相手なので、獲れる数・大きさなど年によって異なり、展示しているサケの数が少なくなってくるとハラハラするとのこと。その分、お客さんに「初めて産卵シーンを見た」と感動してもらえた時は、なにより嬉しい瞬間だと話してくれました。

また、イヨボヤ会館では鮭に関する食文化の伝承にも努めており、毎年11月～12月には村上の代表的鮭料理である塩引き鮭の体験講習会「塩引き道場」が開催されています。この「塩引き鮭」はこの地方では大晦日の年取り魚として食卓に欠かせない食材(ごつつお)となっていることもあり、好評となっているようです。

最後に館長にこれからの抱負を尋ねたところ、サケをはじめ地域の自然に関心を持ってもらえるよう、こどもから大人まで分かりやすく楽しい展示等を行って行くようにしたいとのことでした。

日本のサケ資源はふ化放流事業の成功によって増大し、今や秋に多くのサケが回帰してくることは当たり前になっています。一方で、輸入サケに押され、国産サケの価値が低下してきている昨今、鮭を守り、独自の鮭文化を築いてきた村上の人々の鮭に対する思いを今こそ見習うべきとの思いを強くし、イヨボヤ会館をあとにしました。

イヨボヤ会館



新潟県村上市塩町13-34

TEL 0254-52-7117

入館料 有料(詳細は会館まで)

開館時間 9時～16時30分

休館日 年末年始(12月28日～1月4日)

*臨時開館をする場合があります。